

## 第2回白山市教育委員会会議録

1 日 時 令和7年3月4日（火）午後3時

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

教育長	清水 茂
教育長職務代理者	竹内 千恵子
教育委員	小寺 正彦
教育委員	尾張 勝也
教育委員	安川 薫
教育委員	佐賀 一夫

4 事務局

教育部長	谷口 由紀枝
教育総務課長	西村 幸広
学校教育課長	藤 法生
学校指導課長	齋藤 信之
生涯学習課長	米木 伸一
松任図書館長	澤田 憲司
子ども総合相談室長	浅香 弥生

書記職

教育総務課課長補佐	長島 史晃
教育総務課係長	山崎 有香

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第2号	令和6年度白山市一般会計補正予算（教育費）について
議案第3号	令和7年度白山市一般会計予算（教育費）について
議案第4号	白山市進学奨学金基金条例について
議案第5号	第2次白山市教育振興基本計画の策定について

7 議事の経過等 以下のとおり

清水教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として佐賀委員を指名した。

諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

■主な行事の概要（11月26日の教育委員会以降の報告）

- ・ 11月27日（水） 令和6年度全国中学校体育大会石川県実行委員会第3回役員等  
研修会（解散総会）（教育プラザ富樫）
- ・ 12月2日～12月23日 令和6年市議会12月会議  
12月11・12日 一般質問  
教育委員会への質問は 5議員から27件
- ・ 12月7日（土） 白山市PTA大会（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ 12月17日（火） 目録贈呈式（特別応接室）
- ・ 1月7日（火） 校長会議（402会議室）
- ・ 1月12日（日） 令和7年二十歳のつどい（市内4会場）
- ・ 1月17日（金） コミュニティセンターと学校運営協議会との共同研修  
（市民交流センター）
- ・ 1月18日（土） 市制20周年記念事業 中川一政記念絵画公募展表彰式  
（松任学習センタープララ）
- ・ 1月24日（金） 常陸宮賜杯第75回中部日本スキー大会開会式  
（鶴来総合文化会館クレイン）  
第1回教育委員会会議（持ち回り）
- ・ 1月27日（月） 令和7年市議会1月会議  
全国中学校スキー大会激励会（市民交流センター）
- ・ 1月29日（水） 健民運動推進本部 子どもの夢実現サポート事業地域発表会  
（美川今町地内）
- ・ 1月30日（木） 新任教育委員研修会（金沢市役所第2本庁舎）
- ・ 1月31日（金） 市制施行20周年記念事業白山めぐみんジオパーク給食試食会  
（東明小学校）  
教育委員会協議会（402会議室）
- ・ 2月1日（土） 市制施行20周年記念式典（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ 2月4日（火） 雪害対策調整会議（402会議室）
- ・ 2月8日（土） 雪害対策調整会議（402会議室）
- ・ 2月12日（水） 第2次教育振興基本計画第3回策定委員会（402会議室）
- ・ 2月14日（金） 第4回白山市中学校部活動の地域連携及び地域クラブの在り方  
協議会（402会議室）
- ・ 2月17日（月） 叙勲伝達式（特別応接室）
- ・ 2月19日（水） 校長会議（402会議室）
- ・ 2月20日（木） こども家庭センター活動報告（庁議室）
- ・ 2月22日（土） 第77回石川県民スポーツ大会冬季大会スキー競技会開会式  
（白峰コミュニティホール）
- ・ 2月24日（月） 第11回ライン賞表彰式（鶴来総合文化会館クレイン）
- ・ 2月26日（水） 第2次白山市教育振興基本計画答申式（教育長室）  
社会教育委員会会議（402会議室）
- ・ 2月27日（木） 学校衛生委員会（403会議室）
- ・ 3月1日（土） 翠星高等学校卒業式（同校）

本日の議題に入り、議案第2号、議案第3号、議案第4号、議案第5号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、原案通り承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○令和6年度白山市一般会計補正予算（教育費）について

（竹内教育長職務代理者）

体育館のLED化は、資料に挙がっている学校に実施したら、ほとんど終わるのですか。白山市の他の小学校、中学校の体育館はどんな様子ですか。

（西村教育総務課長）

体育館の照明については、一部の長寿命化改修事業の中で更新しているところもありますが、基本的には、令和7年度で体育館については完了するという形になります。校舎については、また令和8年度から順次やっていくことになります。

（尾張委員）

4つの学校の体育館だけをLED化するのに、これだけお金がかかると、一般的に考えるとLED化工事とは大変高いものですね。LEDそのものもそうですが、体育館の高いところに足場を組むための工事等でお金がかかるのか、何でこんなに高いのかというのが一つあります。あと、LEDにすれば、かなり省エネになるということは、自分の家でもいろいろなところで使っているのだから、分かるのですけれど、実際、数値として例えば何%ぐらいになるか、いくらぐらいになるか見込みがあれば、お願いします。すぐ分からなかったら、後日でも構いません。LED化することは大変良いと思うのですけれど、高すぎるのではないのでしょうか。

（西村教育総務課長）

まず工事費が高すぎるのではないかと、ということですが、確かにおっしゃるとおり、天井が高いので、現在、全面足場、それからそれに対する養生を全て計上しています。概算工事費を出す上においては、そのようにしております。実施設計において、その辺を精査しながらやっていきたいと思っておりますので、もう少し金額的には下がるかと思っております。それから効率がどれだけ上がるかというご質問ですけれども、体育館は50%ぐらいだったかと思いますが、後程また詳しい数字をご報告させていただきたいと思っております。

○令和7年度白山市一般会計予算（教育費）について

(竹内教育長職務代理者)

10款2項1目の小学校管理費の中の小学校管理事業は、去年よりも当初予算が減っています。最近、修繕費、光熱費、燃料費等がととも上がっているのに、予算が減っているのは、一体何がどこで浮いたのでしょうか。中学校も100万円単位で減っていますけれど、どういところで浮いたのかと思います。

(齋藤学校指導課長)

まず一つとして、来年度、学校司書の正規職員が一人増える予定です。つまり会計年度任用職員が一人減るということで、一人分の人件費が減ることになります。ここに記載の7名というのは、会計年度任用職員の数になります。正規職員の数は入っておりません。

(藤学校教育課長)

光熱水費については、学校の方へ節電等のお願いを最近させていただいている中で、ご協力いただいて、物価が上がる中でも抑えていただいているというところです。予算的には少し抑えてというか、全体的に今も言ったような事業の中での縮小という部分もあって、減額となっています。

(竹内教育長職務代理者)

節約して、というのもありがたいことだと思うのですが、それだと今まで無駄使いしていたのか、というような考え方もできるので、教育に支障のないような減らし方というか、そういうところをまた見ていってあげて欲しいです。また電気料が上がるそうですが、令和7年度の当初予算が去年に比べて少なかったもので、どうしてなのかと思い、質問しました。

(尾張委員)

これに関しては、いつも学校訪問でも言っているのですが、いろいろ電気代等が上がる中で、特に来年度に向けては夏場のエアコンで、窓を開ければエアコンはいらないのではないかという状況でも、学校の先生方は窓を締め切って、エアコンで自動的に空調してもらおうということに慣れている。これは、いろいろな意味で良くないと思うのです。暑い日、寒い日、風のある日の中で、窓を開けたり、閉めたりする。いろいろな基本的な生活の工夫というか、暮らしの工夫として、まずやらなければいけないことを、全部オートメーションみたいにやるということはどうなのでしょう。例えば、環境を一定に整えるという意味なら良いのですが、少しカーテンを開ければ、外から光が入ってくるのに、全部カーテンを閉めて、全部電気が点いているというのが、学校で結構当たり前になっています。自分も含めてだけれど、学校の先生方にもクラスの中で、節水しましょう、スイッチは切りましょうとか書いてあるのだけれど、自分は違和感があります。予算だけの問題ではないのですが、我々はそういうことも大事にしていかなければいけないのではないかと、という意見です。

(佐賀委員)

10款1項3目教育指導費の部活動指導員配置事業の12名は、全中学校に配置されるわけですが、これは競技、文化部であればどの分野の先生、指導員という要望が各学校からあって、この方を配置という形になっているのか、どういった形になっているのでしょうか。新学期になって、先生方の異動の状況を見てから、人を探して配置するというのでしょうか。

(齋藤学校指導課長)

佐賀委員さんがおっしゃるとおりで、学校のニーズを受け、新年度になりまして教員の異動があった後に、この部活動に専門家がないということで、ぜひ配置してほしいというところを極力配置するよう、こちらも努めております。現在、運動系もそうですけれど、文化系の方もプラスバンドに入っている学校もあります。今の時点でされている方が、引き続きという場合も多いのですが、基本的には人事異動後の動きというふうに捉えております。

(佐賀委員)

もう1件、数カ所に渡って、低所得者の世帯向けに修学旅行、就学補助等の補助金の記載がありましたけれども、こういったことは対象者の方自身が当てはまるので、ぜひお願いしたいというように、就学時の資料がない中で、各世帯がきちんと情報を把握できて、申請できる形になっているのか。また、混雑で何のことか分からないという状況になってないのか。スムーズに必要な方達にきちんと給付できる仕組みがどんな形になっているのか教えていただきたい。

(藤学校教育課長)

低所得者の支援ということで、就学援助は小学生、中学生の世帯が対象で、全世帯の方に制度があるということ、毎年、年度当初にご案内させていただいております。高校生の奨学金制度については中学校3年生を対象にして、制度を周知させていただいております。高校生の修学旅行への助成制度については、高校に入ってからになりますので、広報はくさん、或いは高校を通じて、周知するような形とさせていただいております。

(佐賀委員)

実績として、きちんとそうやって補助を受けている方は、実数というか、想定している範囲で該当となる方達が受けているということ把握しているというのか、実態としてどんな様子でしょうか。

(藤学校教育課長)

率的には児童生徒も減っているので、就学援助についてもやはり減ってきてはいるのですが、率で言うと16%、17%というような数で推移しています。それと、高校生の

方の奨学金になりますと、低所得者かつ優秀な方ということで、そこはその所得の方を全部ということではないので、審査会で決定させていただいております。

(竹内教育長職務代理者)

10款5項5目図書館費、はくさん電子図書館事業は、150万円ぐらいの予算で200件分ということで、この利用率はかなりあるものですか。利用者数、利用頻度・・・紙の図書だと安いけれど、比べたら電子図書は値段も高く、非常にニーズがあるのかと思って、質問いたします。

(澤田松任図書館長)

令和6年度は、まだ統計上出ていない状態になるのですが、それほどは伸びていない状態です。令和5年度の段階で貸出数は2,283冊で、これは実際のところ令和4年度よりも下がっている状態になりますので、これにつきまして、選んだ資料の関係もあるかと思っておりますので、令和7年度につきましては、もっと利用頻度が高い資料を選んで図書を入れていく予定をしております。

(清水教育長)

そんなに伸びていないということがありまして、これは課題です。課題ですから、今、図書館長が言ったように、有期限の人気があるようなものをもっと入れていったらどうか、という内部での検討をしています。

(安川委員)

紙の図書では、図書館にこんな本があったら借りたい、ということを要望したら入れてくださるということがあるので、電子図書でも同じようにできるものかどうか、教えていただきたいと思っております。

(澤田松任図書館長)

まず、一般の図書館での本ですけれども、貸し出しのリクエストというのは受け付けておまして、この本を借りたい、ということをおっしゃっていただけましたら、他の図書館から借り受けるか、もしくは購入して用立てるという形をとっております。これについて、どちらにするかというのは、結局、この本を入れて欲しいではなくて、あくまでこの本を借りたい、ということに対して対応いたしますので、場合によっては他の図書館から借り受けまですし、場合によっては新しく購入して用意することがありますので、必ず購入して欲しい、という要望については受け入れていない状態になります。電子図書館につきましては、今現在そういった要望を受けていない状態で、実際のところ、どの本が電子図書館で貸し出せる本として用立てられるかというのは、多分普通の利用者は分からない状況かと思っております。例えば、アマゾン等いろいろなところで電子書籍が出ていると思っておりますけれども、全部すべか

らく図書館の方に入れられるものではなくて、あくまで電子図書館用に決まっているものがありますので、これについては図書館の者でないとこの本は入る、入らないまでは分からない状況にありますので、利用者からのリクエストを受けていない状態です。

(竹内教育長職務代理者)

今はまだ私のようなシニアは、電子図書というのはなかなか抵抗があるけれど、子どもたちが学校で電子教科書を使うようになってきたら、この子たちが大きくなった時に、やはり図書館は電子にしてほしい、という要望が増えるかと思っていたので、どちらも並行して、ニーズに応えないといけないだろうとは思っています。そのうち、学校図書にも電子図書を入れて欲しいと要望が出始めるかもしれません。今は紙の教科書ですから、電子教科書にした時には、また景色が変わるかと思いました。

(尾張委員)

10款5項3目の文化会館費で、今まで意識していなかったのですが、コミュニティセンターレッツ管理費について、結構な額が計上されていて、どういうふうに使われていて、何が行われているかということ、他の会館はよく分かるのですけれど、割に人件費ではなくて、施設使用負担金だけで結構なお金だなと思ったので、どういうふうに使われているのかということと、もう一つは10款5項6目のジオパーク体験活動推進事業のジオパーク学習支援員派遣業務が35万円ということなのですけれど、これは1回一人当たりいくらという単価が決まっているのか、というその二つをまず教えてください。

(米木生涯学習課長)

まず1点目のレッツですが、合併前から、鶴来地域におきまして、鶴来公民館が手狭ということで、レッツのホールを研修室やイベント開催時に使用しておりました。合併後もそのままどうしてもレッツの場所が必要だということで、使用しております。施設使用負担金が部屋代になり、管理補助金が施設の部屋を管理するための管理費用になっています。今でいう鶴来コミュニティセンターの別室という感じで委託をしている状態です。続きまして、学習支援員の方ですが、今のところはジオパーク・エコパーク推進課の方が、学習支援員さんを管理しておりますが、令和7年度から支援員さんの派遣に関しては、生涯学習課の方で担当することになりました。理由といたしましては、学校への派遣なので、教育委員会で派遣した方がよいという話もありまして、そのようになりました。一人当たりの金額は、謝金が1回1,000円になっていまして、交通費は別途精算となっています。

(尾張委員)

まず、レッツについては高そうだから駄目だということではなくて、僕は鶴来地域在住ではないけれど、レッツというのは、多分この地域の人にとって大変大事な施設なのだろうと思うので、生涯学習を含め、どんどん利用するような形でまた存続というとな変な言い方です

けれど、そうなのかと思って質問をさせていただきました。そして、支援員の方については、前に聞いた時には1回当たり大変安い金額を聞いたので、割と退職された方も多くて、ボランティアな気持ちというかボランティアとしてほぼやってくださっているのだけれど、やはりある程度の報酬というか、別にお金が安いからいい加減にやるという人達ではないのだけれど、それなりに報酬を出して、きちんと責任を持ってやっていただく、とは言っても、お金はどこから持ってくるのかということもあるのだけれど、そういうふうになったら良いということをおもいます。あと、先ほど出ていた電子図書の話で、今日は詳しく話はしないけれど、この間、ある本を読んで思ったのは、感性を豊かにするのに触覚というのは五感の中で大変大事だということで、この紙をめくるという作業が大変感性を刺激するという話を聞いて、なるほどと思いました。だから本は単に読むだけではなくて、この薄い紙を1枚1枚めくるとい、確かに最近、本を読む時に2ページを一緒にめくってしまって、自分の感覚に少し問題があると思ったところだったから、今日はこれ以上話しませんが、そういう意味から電子を進めて、情報を提供するというだけではなくて、質感とか1枚1枚めくるとい、この触覚というものが五感を通して我々の感性に大変良い影響を与えているということを読育の方でも、また進めていきたい、という意見です。

(小寺委員)

10款5項6目青少年団体育成事業の青年団補助金について、青年団は町内会関係では、今もやっている町内もあるのですけれども、地区等でまだ青年団活動はあったかなと思いました。青年団と聞いただけで、昔50年前に青年団活動を結構頑張っていた頃を思い出してうれしくなったのですけれども、今は青年団活動をどの地区がやっているのか教えていただきたいと思ひまして、質問させていただきました。私らの時は各校下にあつて、その上が鶴青協(かくせいきょう)という団体でやっていたのですけれども、もう40年ほど前に縮小してなくなったということです。それから地区の方はなくなって、町内会の青年団だけは、まだ残っている町内会がいくつかあるというだけで、ほとんど鶴来地域にはないのです。そして松任地域も確かその頃、一緒になくなったと思うのです。私の頃は美川の蝶屋地区等に行つて、いろいろ交流会させていただいたのですけれども、もう50年前です。美川、松任も結構行つたのですけれども、それから3、40年前からそういうことを聞かなくなったので、どうだったかと思ひて、青年団が出ていたので、本当にうれしくなつてお聞きしました。団体が残っていれば、青年会館負担金等も必ず必要だと思ひるので、特に白山市は昔、金沢市の卯辰山に青年会館があつた時、出していたので、今もあるのかと思ひました。

(米木生涯学習課長)

今、手元に資料がないので、また調べてお伝えします。

(清水教育長)

おそらく、私が県生涯学習課に在籍していた時に、県の青年団に各自治体の青年団が所属し

ていて、白山市のまとまりとしての青年団なのではないかと思います。白山市から県青協の役員もしていたと思います。19市町の全部が入っているわけではなく、組織のない自治体もあります。白山市は確か、白山市としての青年団協議会があったはずですけど、それも含めて生涯学習課長、調べておいてください。

(佐賀委員)

予算のことではないのですが、10款5項1目の、立志のつどい開催事業について、資料を見ると中学2年生に対して、今までやっていなかった、一つのホールに集まって、映画を見ようといった試みになるのですか。

(米木生涯学習課長)

映画「消えない虹」の上映というのは、実は監督さんがお願いに来られて、美川中学校等でも上映した実績があることから、市内全域でできないかという相談がありました。立志式の時には、いつも立志に関わる記念講演を講師の方からいただいているのですが、来年は、映画鑑賞と会場の環境のことも考えて、合同で上映しようかという形になりました。ただ、上映するにあたって、監督さんから設備上、松任文化会館とクレインの2会場しか使えないということを逆に言われまして、その2会場の方で企画しております。予定では、松任文化会館は松任地域4校、クレインは美川と鶴来地域、白山ろく地域の合同で開催したいと思っています。

(佐賀委員)

立志式とは別の日にするということですか。

(米木生涯学習課長)

いえ、立志式の記念講演に当たる部分を、映画鑑賞という形に変えることになります。立志式として合同で開催し、式典が終わったら映画鑑賞になります。

(佐賀委員)

ということは、各学校に我々が行くということがなくなるのですか。

(米木生涯学習課長)

いえ、合同開催でしたいということもありまして、先日の社会教育委員会議でも出たのですが、教育委員の皆さんはもう感じていらっしゃるかと思うのですが、時期的に今の時代、空調設備の良くない体育館でやるということ自体が、生徒の方にも負担がかかりますので、なるべく空調設備の整ったところでやりたいと事務局的には思います。まずは7年度に映画鑑賞ということをつきかけに合同開催をいたしまして、8年度以降も合同で立志式を開催できないかということは考えております。

(佐賀委員)

それは良いと思います。二つの中学校に行ったのですけれど、校長先生にしても自分にしても、社会教育委員さんにしても、何のためにどうやっているのかといった感じで、主催という立場で行って、来賓の方がいて、子どもたちがキョトンとした様子で何か物事が全部進んでいて、先生方もあまり理解していなかったと思いました。立志式とはどんなものかと思えば、本当にもう昔からあったことで、僕も学生の時に作文を書かされた覚えがあります。これからどんな志を立てていくといったことを授業中に書いて、それが冊子になっていた気がします。そういったふうにして、子どもたちが聞くばかりではなくて、参加して考えるということが大事なのではないかと思っています。東北だったか、どこかは忘れたのですけれども、結構派手にというか、フリーの題材なのか、色紙に好きな言葉を掲げて、私はこれからこんなことやっていきたいと思います、と短く宣誓するのですが、本当にもう流れるようにして、すべての中学2年生がやっていて、それは保護者にも公開していました。とてもたくさんさんの保護者さんが集まって、自分達の子どもが大人の一步を歩んでいる姿を、家中だけの会話ではなくて、社会の中での責任を持った言葉を発する子どもたちを見る場、といった立志式らしい形になっていたのです。そういった形になるなら、大変意味のある式典になると思ったので、今、新しい試みとして、確かに白山市内の他の学校の2年生も集まることで、また意識が芽生えたら良いと思います。もし負担がかかるのであれば、各校から一人ずつ主張発表のようなことをして、同じ世代の子たちが、どんなことを発言するか、映画の内容にもよりますけれど、いずれそういった意味のあるものになったならば、と思います。

(竹内教育長職務代理者)

私も賛成で、先日、市制20周年記念式典で市の一体感というようなお話もあったので、自分たちは白山市の子どもなのだとすることを、いろいろな学校とジオ学習もしているし、こういう行事を通してやれば良いかと思っています。それから最初、教育委員になった時に、この立志式にどんな意味があるのだろうか、本当に必要なのだろうか、と実は思っていて、非常に寒い時期でインフルエンザが流行っていて、そして今は時期を少しずらしている学校もあるのですが、3年生が受験の前で、学校も非常に生徒の健康管理ということに気をつけている時に、2年生を全員寒い体育館に入れるということ、それからもう1点は、1か月たつと3年生は卒業していくわけで、2年生を集めて必ず中学校は、君たちは今度最終学年になるのだからその自覚をもって頑張ろう、といったお話をされている。似たようなお話を教育委員が話しているので、教育委員が話すことと、学校が話すことは違うのだけれども、子どもたちにしたら、よく似た話を何回も寒い時に聞くことになると思っていました。けれども、こういう形で他の中学生と交流をしながら、そして映画であれば比較のお金はかかるけれども、市の予算としては、各中学校でやるよりは安くなるのではないかと思うので、良いものを見せることができるので、ぜひ、佐賀委員もおっしゃるように意義のある、やるからには前例踏襲ではなくて、独自のものをやっていただきたいと思いました。

## ○白山市進学奨学金基金条例について

(竹内教育長職務代理者)

何人ぐらいを考えていらっしゃるのか、ということと、高校生で大学に行くほか、上級学校として専門学校等、どのあたりまでのことを考えていらっしゃるのか。

(藤学校教育課長)

金(きん)の売り払い金が1,082万円で、10万円を大学等に進学した時に支給するというので、高校生の進学奨学金を受けているのは、年度あたり5人程度の予算でやっていますので、毎年5人ということであれば、年間50万円で、約20年間継続できる事業かと思っています。それで進学等ということで、石川高等専門学校の場合は3年生以上の5年生というところも含めて、進級或いは専門学校へ進んでいくという方も含めて、高校奨学金を3年間受けてこられた方を、所得要件を見ながら選考することとなります。

## ○第2次白山市教育振興基本計画の策定について

(竹内教育長職務代理者)

本当に事務局の方は大変だったろうと思い、策定委員会の方もそうでしょうが、一生懸命、事務局の人達に何度も何度も手直しをしていただいて、良いものができたのではないかと思います。私が特に今回入れていただいて良いと思ったのが、サポート体制の拡充で、特異な才能のある子どもというのは、学校訪問をしますと、どうしても学校現場というのは、底上げということが中心になるような授業展開というのがなされてきて、でも一人ひとり最適な学びというのは、全員を対象にした一人ひとりなので、この子たちを生かした教育を白山市のためにもしないといけないのではないかと常々考えていて、このように入れていただき、とてもストーンと落ちました。本当にありがとうございました。

(尾張委員)

改めて読み直してみると、竹内委員の言うとおりに、事務局に対して、作る自分達もいろいろなことを好き勝手に言わせてもらいましたけれど、魂のこもった、お題目ではなくて良いものができたのではないかと、というふうに今も見えて思いました。はくさん3育については、僕が教育委員になった時に、「尾張さん、この白山市は3本の柱をメインにしているのだよ、自然体験の活動、食育、図書館を中心とした読書の3つの柱でやっているから」ということを最初に聞いて、いろいろな発表会でも白山市はこの3つをメインにやっています、と言ってきました。それにネーミングではくさん3育とついたことで、ただこの3つをやっているのです、ということに比べたら、大変なインパクトというか、思いが強くなりそうだと思うので、うれしく思っているのと、自分もいろいろなことを考えているのですけれど、当たり前

だけれど、実は、全部がいろいろなところでシンクロしているというか繋がっていて、僕らが日頃生きる、暮らすことの基本になるようなことで、別に他の市町を評価、批判するわけではないのだけれど、今、世の中に出てくる新聞記事で〇〇市、〇〇町はこんなことやっています、というのはせいぜい5年、10年先で僕に言わせれば、目先のことばかりやっている。もちろんデジタル化のような目先のことやらなければならないと思うけれども、このはくさん3育というは、50年後100年後を見据えた施策だと思う。これはもう教育長も含めて、自分達は目の前ばかり見ていない、遠い先を見ている、でも先ばかり見ても明日食べることができないという部分もあるので、そのバランスを取っていくということで、他には真似できないと思う。でも今は、あくまでもまだ絵に描いた餅で、やっていることはもちろん書いてあるけれども、これからいかに具現化していくかが大事だと思うのですが、本当に何をどうすれば良いかということも結構分かりやすいのではないかと。やはり芯があると分かりやすいのです。そこから出てきたり、戻ったりできるので、物を考える時に、やはり掘りどころのようなものがあると分かりやすいので、僕もこのはくさん3育だけではないけれど、これを中心にいろいろ広がったり繋がったりして、白山市らしい、白山市で子どもを学校に入れたいと思うようになれば良いと思います。

#### (小寺委員)

8年の長期のものを、今まで計画は常に5年10年でやっていたのですが、10年で全く世の中が変わってしまって、そして5年でいつも見直していたのですが、5年で見直しても5年前と全く世の中が変わってきて、子どもたちへの教育の方法等もガラッと変わって、だから今これをどうするのかと常に頭にあつたものが「第5章 計画の実現にあたって」のところで、「3 変化に対応した計画の進行管理」でそうかと思って、ここで計画の見直しができるような格好になりましたので、これが本当に良かったと思います。これからは数年でも変わっていくと思いますので、直せることはその都度直せるような感じで持って行っていただきたいと思います。

#### (安川委員)

まず、とても分かりやすく説明していただいて、もちろんこれは、その都度修正して直してという事務局の方のご労苦の上にあつてのことで、今日は本当に分かりやすく説明していただいて、ありがとうございました。本当に尾張委員さんもおっしゃったけれども、その目先のことではなくて、自分達が良ければそれで良いという内容とは全く違って、私達が骨になって墓に埋まった後も、この基軸となる部分というのは、このはくさん3育が軸にあつて、その中で世の中の変化に合わせて、また何か修正というか、よりその時代にあつた内容に作り変えてということが、とても分かりやすいのではないかと思います。そうしてみないと分からないということもあるにしても、本当に分かりやすく見たら分かるということで、もう少し深く読み、掘り下げていったら、誰かに何か聞かれても、こういうことだ、と自分なりの解釈になってしまうと少しづれがあるかもしれないですけど、それでも近い

形でお伝えすることができるのではないかというふうに思いました。本当にありがとうございました。

(佐賀委員)

私もやはり一つの、ここまでしっかりした軸となる部分を築いて、今言われたように、その時代による変化によって、頑なにこれを絶対ずらさない、ではなくて、その変化に応じることで、柔軟な対応がやはり大事だと思います。その時代、その場面で情勢に応じて、変えるものは変えていけば良いと思いますし、また我々もこれを基に学校訪問等で、いろいろな要望がまた新たに加わるわけですけれども、うやむやとしたものではなくて、ズバッと書いたことばかりで分かりやすく読解できるものなので、ぜひいつもこれが公表になるのか分からないのですけれども、学校現場でも先生方が見て、白山市が目指しているのはこれなのだということと、地域の方にも広く伝わるようにして、学校任せではなくて、地域の大人達が子どもたちを育てるし、僕がいつも思うのは、地域も学校に来る先生方にやはり感謝して欲しい。自分達の地域の未来を作るのは子どもたちで、その子どもたちにいろいろなことを教えてくださっているのが先生方、という意味では、保護者ばかりが先生に感謝するのではなくて、地域の人も学校を支えて継続して応援していかなくてはいけないと思うので、こういった一つの同じ目標を計画に掲げて目指していければと思いますし、もしできるなら、これをもう少し見やすいポップなもの、一般市民の方が分かりやすく見やすいものが、計画の中にも所々あったのですけれども、そういったものが、ぜひ市民の方に目に触れる形になったならば、と思います。広報の仕方を工夫いただいて、せっかく良いものを作ったので、ぜひ皆さんの目に触れるようにやれたらと思います。お疲れ様でした。